

会

派

の

意

見



文責は各会派にあります

日本維新の会と 市民派の会

一般会計は、277億円とほぼ前年と同額で予算計上がされています。予定されている大型公共事業がまだ計画段階のため、市債総額は、324億円で前年とほぼ同額ではありませんが、10年前よりも1.5倍になっています。臨財債は、国の消費増税政策による交付税対応により、年間で3億5千万円減少しましたが、10年間で2倍の146億円の累積借金となっています。

現在、消費増税による便乗値上げ

によって、物価が上がって来ています。これから行う予定の大型公共工事は、この影響を受けるため、税金で行う事業費用が膨らんでいきます。5年後には、団塊世代の人達が後期高齢者となる2025年問題が始まり、10年後には、それを支えてきた団塊ジュニア世代が定年を迎える2030年問題が始まります。これらの対策として、「抱えるものを削減し、必要なものを最小限に」という考えで、庁舎建て替え問題などの全てのハコモノ事業について、見直しを行い、計画そのものを再構築していく必要があります。

平成市民クラブ

平成三十一年度予算は、国補正予算活用分を含め総額二百七十八億円規模で、積極的な「未来への投資」をしていくものとして可決しました。市庁舎建替え工事着手、道の駅的施設の調査予算、中学校給食全校実施、済生会京都府病院の整備への予算、大河ドラマ放映に伴う歴史・観光等魅力発信関連事業予算、子育て支援や待機児童対策・健康・長寿・プラン推進など市民生活にかかわる施策について話し、十分な説明を求めました。

特に、市内の生活道路の交通安全対策や、自転車を安全で快適に利用できる環境整備について話し、ゾーン30や自転車安全利用啓発を拡充する回答をいただきました。高齢者健康生きがいづくりや公園施設の適切な維持補修について、災害時の備蓄物資や避難訓練について要望をし、丁寧な説明をいただきました。

平成から新たな時代を築く大切な時期でもあります。八万市民がより豊かに安心して暮らせる「住みたい住みつけたい 悠久の都 長岡京」の実現のため取り組んで参ります。三木常照・中小路貴司・寺嶋智美

平成西山クラブ

平成31年度予算は、277億8400万円余りとなり、昨年に引き続き、過去最大を更新した積極的な予算となりました。防災拠点やバリアフリーの機能を備えた市庁舎建替えについては、平成31年度にその関連工事が始まることにより、いよいよ市民の目にも見えた形で整備が進んでいくこととなります。また、阪急長岡天神駅周辺整備についても、基本調査実施の予算が計上され、地域住民や国・府・鉄道事業者との協議

・検討が行われる予定であります。観光や農業の振興についても、平成31年度は、道の駅的施設設置に向けたサウンディング調査の予算も計上されました。商工・観光業者との連携も含め、地産地消、農業振興を図るべく、主体となる農業者の意見も十分に踏まえ、検討を進めていただきたいこと、また、長期間の一大事業でありますことから、市民にまちづくりを自分達で考えていくといった主体性を持っていただくことが重要であり、市長にはその機運を高めていただくことを要望しました。上村真造・白石多津子・田村直義

公明党

中小路市政2期目のスタートとして、計画から実行へと多くの施策が本格的に実を結んでいく年度と位置づけられた平成31年度予算は総額278億円と過去最大となりました。

この予算には公明党が提案し続けてきた中学校給食が、本年度に全校実施、また市民の安全・安心を守る「見守り機能付き防犯カメラ」の運用の予算が盛り込まれました。また子育て支援では、中学3年生まで医療費助成が拡充、保育所の待機児童

を早期に解消するために民間の活用を充実。放課後児童クラブでも保護者ニーズに柔軟に対応できる民間委託を推進。教育相談事業の相談体制を充実し、学校ICT環境の整備、耐震改修や危険ブロック撤去への支援の実施、全小学校区での一斉防災訓練を継続実施。西山の整備や生活環境の保全、循環型社会における低炭素社会への転換、ごみの減量の推進などの施策が予算化されました。

これからも「小さな声を聴く力」を活かしながら、全ての市民が安心して安全に暮らしていける長岡京市の発展に取り組んでまいります。

平成自由クラブ

平成三十一年度補正予算及び平成三十一年度歳入歳出予算が可決しました。第4次総合計画の将来都市像の実現に向け、戦略目標である「定住の促進」「交流の拡大」「まちの新陳代謝」を掲げ、積極的な「未来への投資」を大きく進める一方で、「子育て支援」や「待機児童対策」「健康長寿プラン」施策の推進に向けた決意が感じられました。しかし大型プロジェクト等による投資の膨らみは、財政運営の健全性や社会保障などに

要する義務的経費の割合も大きくなり、市民生活に必要とされている諸施策にも影響が及ぶのではないかと云った不安要素や懸念材料があるのも事実であります。厳しい財政状況の中において、判断力・行動力が求められる事から、市民との「対話」を通して丁寧に応えて戴き、先人から受け継がれてきた財政の健全化を維持するため、緊張感を持って力強く行財政運営を執り行われることをしっかりとチェックしていきたいと存じます。結びに市議補選で当選された議員を加え頑張ってください。八木浩・小野洋史・富岡浩史

日本共産党

市民との「対話」に欠ける市政

中小路市長は2期目にあたり「対話が信念」と述べましたが、「対話」に欠ける姿勢が目立ちます。神足保育所の民営化発表は、新年度入所児の発表直後でした。

市民の努力でゴミ排出は減ってきているのに、「目標に達しなかった」と、ごみ袋指定制を導入します。「公共交通会議」をつくっているのに、阪急バス値上げは「報告事項」。

それに合わせて、はっぴいバスの値上げまですぐ決めてしまいました。DVなど女性の相談の場「女性交流支援センター」に男性職員も配置しますが、審議会や女性支援団体に

はからずに決めてしまいました。公共施設使用料を消費税分として10%値上げしますが、運営審議会等にはかられていません。

党議員団の求めてきた緊急通報システム改善や、中学卒業まで医療費無料化（9月）、保育所の幼児のごはん提供（10月）など前進面もありましたが、市民との「対話」を求めて新年度予算に反対しました。

輝（かがやき）

平成最後の議会が閉会しました。中小路市長の二期目最初の議会であり、平成三十一年度予算を議決する重要な議会です。予算では、保育所の拡充や中学校給食の完全実施など、子育て・子育て支援を積極的に進め、健康マイレージ事業の実施や済生会病院への補助、大河ドラマ「麒麟がくる」関連での経費、見守り機能付き防犯カメラの全数稼働など、積極的な内容となっています。

『麒麟』は時代が変わる時に現れ

ると言われています。平成から次の元号へと時代が変わり、人口減少・超少子高齢社会を乗り越えていくためには、私達議員は市民の代表としての自覚を持ち、是々非々で行政と向き合い、真剣に議会で議論を深めなければなりません。党派『輝』は党派内ですっかりと議論をし、多様な意見を取り入れ、市民に一番近い党派として、今後も一生懸命に取り組んで参ります。全ては8万人もの長岡京市民と長岡京市の未来のために、しっかりと働いて参ります。

綿谷正巳・大伴雅章・進藤裕之
宮小路康文・富田達也